

日本顔学会
30周年
記念シンポジウム

実行委員長：菅沼 薫

場所▼
早稲田大学国際会議場
井深大記念ホール

日時▼
2025年3月29日(土)

2025



似顔絵制作：中野 英明

第30回
日本顔学会大会

大会長：森島 繁生

第30回日本顔学会大会
(フォーラム顔学2025)は、
早稲田大学国際会議場
井深大記念ホールで、
2025年
11月1日(土)、2日(日)に
開催です。

2025



似顔絵制作：松永伸子

電子広報委員会

いま、なぜ顔学か？
～個性の尊重、細分化から統合へ～

統合化の中心はコンピュータグラフィックスを始めとするコンピュータの発達と普及です。
コンピュータ技術が多様な分野を結び付ける接着剤の役割を果たしています。

- 電子広報委員会では以下のような業務を担当しています。
- ・日本顔学会公式ホームページの記事更新とサーバー管理
- ・会員メールアドレスの管理とメーリングリストの配信
- ・FacebookとXの日本顔学会公式アカウントによる記事の投稿と管理



日本顔学会ホームページ

Facebook

X

委員長：鈴木 健嗣



似顔絵制作：大野 寛武

賛助会員 B-by-C

あなたの顔が
あなたの未来を変える

corporation



▲ホームページ

賛助会員 TAKARA BELMONT

タカラベルモント株式会社は、理美容・デンタル・メディカルの設備機器や化粧品等を手掛けているメーカーです。

フォーラム顔学2024では、昨年サービスを開始した理美容サロン向け次世代型ミラー「ECILA」から得られた「顔」に関するデータを基に発表を行い、参加者の皆様との活発な議論を通じて多様な視点を共有させていただきました。

今後も、私たちの製品が皆様の期待に応えられるよう、顔学で得た知見を活かしてさらなる進化を目指してまいります。



◀フォーラム顔学2024会場にて



▲ホームページ

顔学通信編集委員会

編集長：斎藤忍

2023年度より日本顔学会
発行の印刷物が電子化になるのに
に伴い「やっぱり何か印刷物が無いと寂しいね」という声
があがり、この顔学通信の発行となりました。
日本顔学会の1年間を振り返り、その事業内容をコンパクトに冊子にまとめました。



表紙の色が毎年変わります



似顔絵制作：吉村 真由美

顔学通信2024

令和7年1月10日発行

編集・発行 日本顔学会

(株)毎日学術フォーラム 日本顔学会事務局

〒100-0003 東京都千代田区一ツ橋1-1-1パレスサイドビル 9F

TEL 03-6267-4550 FAX 03-6267-4555

印刷所 株式会社グラフィック 〒612-8394 京都市伏見区下鳥羽西芹川町33



日本顔学会
Japanese Academy of Facial Studies

顔学通信2024

日本顔学会 2024 年の活動報告

INDEX

- ・日本顔学会とは？
- ・日本顔学会よりご挨拶
- ・会員募集中！
- ・学会誌編集委員会
- ・日本顔学会関西支部
- ・第 29 回日本顔学会大会開催報告
- ・顔学オンラインサロン
- ・ニューズレター編集委員会
- ・日本顔学会若手交流会
- ・化粧文化研究者ネットワーク
- ・美人画研究会
- ・日本顔学 30 周年記念シンポジウム
- ・第 30 回日本顔学会大会のお知らせ
- ・電子広報委員会
- ・賛助会員
- ・顔学通信編集委員会

日本顔学会とは？

▼『従来の枠組みを超えたネットワークの創造』

1995年3月、顔に関する研究の発展を期し、あわせて「顔学」の普及を図ることを目的に、顔の研究者、顔の研究に興味がある人が結集して、日本顔学会が発足しました。発足後5年の間に、国立科学博物館を中心とした大「顔」展を企画するなど、世界的に見ても類のない、新しいかたちの学会の活動が新たな波紋を社会に投じています。

歯学・工学・美容・心理学・医学・芸術・人類学

▼顔に関心がある人なら、誰でも会員に！

既存の学会では考えられなかった異なる分野の方々と構成されています。

歯や歯並びを扱う歯学、コンピュータや機械を扱う工学、美容や化粧文化学、眼鏡などを扱う分野、顔の魅力や表情の研究を扱う心理学、形成外科、美容外科、解剖学、神経学などの医学、美術解剖学ほかの芸術学・人類学となります。

いかにさまざまな研究分野・職業の方が集まっているかが証明されているようです。従来の枠組みでは不可能だった出会いが「日本顔学会」を通して可能となっています。

日本顔学会は、広く「顔学」に関する研究者間の情報交流の場をつくり、これまで単分野では捉えきれなかった学際的な「顔」に関する研究の進歩発展をはかり、われわれの生活向上や人間探求の発展に寄与することを目的としています。

工学、理学、医学、生理学、心理学、社会学、哲学、芸術などのあらゆる分野で「顔」に関連する研究を行っている方、及び「顔」の工学・技術的な面、あるいは生理的、心理的、哲学的、社会・経済的な側面に興味をおもちの方は、是非本学会に御入会下さいますようお願い致します。

日本顔学会は趣味の団体ではありません。一方で、顔に関心があり、顔学の発展に寄与したいと考えている方は誰でも会員になれます。顔の学術的な研究者である必要はありません。

日本顔学会会長からのご挨拶

2024年より、菅沼前会長の後を受けて、第五代・日本顔学会会長に就任した阿部恒之です。皆様、どうぞよろしくお願い申し上げます。

私と顔学の出会いは、東北大学文学部哲学科心理学専攻の3年生に遡ります。「心理学特殊実験」という、卒論の練習に位置づけられるレポート実習で、「顔みたいに見える蝶々の写真を記憶するとき、顔独特の記憶現象が現れるか」という内容のレポートを書いたのが始まりです。ちょうどこの頃は、心理学で顔の知覚研究が勃興し始めたころであり、日本国内では、まだ、数名しか研究者がいませんでした。しかし、指導教授と博士課程の先輩が、その貴重な数名だったのは幸いでした。

卒業後、化粧品メーカーの研究員になって、20年間研究を職務としました。ストレスやアロマコロジーなどの生理心理学的研究と共に顔の研究にも精を出し、「顔だちマップ」の開発や、化粧療法の研究などを行いました。この20年間で、「化粧心理学」草創の一翼を担うことができたと思自負しています。

在職のまま、東北大学大学院への編入学を認め、学位を取らせていただいた会社には、今も感謝しています。しかし2005年、愛着あるこの会社を辞し、出身校の東北大学に移籍しました。さらに、2023年3月から、2025年6月まで、公益社団法人日本心理学会の理事長を務めることになりました。私自身の力不足の上に、日本心理学会理事長を兼務することで、日本顔学会会長として十分な働きができないのではないかと不安に感じています。それゆえ、菅沼薫前会長のお力を頼りにしています。事情に鑑み、皆様、大目に見ていただければ幸いです。

さて、顔学会は、学域をベースとした一般的な学会と異なり、顔という対象を求心力として集う、多学域・多専門家の集合体です。学会運営作法が異なる方々が、手探りで会則・規定を整え、工夫しながら組織を構成し、多くの業務を手弁当で行ってきました。合意形成も、広く意見を募り、実に慎重な手続きで行われてきました。このような民主的な運営は、日本顔学会の誇るべき宝だと思います。また、これまでの歴代会長のお人柄に恵まれ、朗らかで楽しい雰囲気も充実していることも当学会の特徴です。研究も大会も、そして学会運営も、大いに楽しみながら行う。そういう伝統が構築されていると思います。この伝統は、大切にしていきたいと思います。

日本顔学会 会長 阿部 恒之



似顔絵制作：高橋エツコ

学会誌編集委員会

「日本顔学会誌」は「日本顔学会」の会誌として、年1回刊行されます。

【日本顔学会会員のみなさま】

2023年度より学会誌はWeb版のみの発行となりました。

また、大会抄録は会員の方のみ閲覧することができます。詳しくは、「第29回日本顔学会大会(フォーラム顔学2024)開催報告」のページに掲載の「抄録集(PDF)」をご覧ください。



編集長：高橋 康介



似顔絵制作：阪西 明子

【日本顔学会誌第24巻論文】J-STAGE



巻頭言
著者：阿部恒之



学術論文
アニメキャラクター平均顔は魅力的な主人公か？
第一著者：太田碧



学術論文
髪型と肌色が髪色の似合いに及ぼす影響
第一著者：中川登紀子



第24巻1号
全論文収録



学術論文
深層学習を活用した顔画像からのアクネ菌の可視化
第一著者：渡部草太



研究ノート
健康な中年女性への舌トレーニングが喉頭、デコルテ面積に与える影響
第一著者：佐藤彰紘



トピックス
日本画でモナリザ？
第一著者：濱田隆史



日本顔学会誌ホームページ

論文投稿に
関しての情報
論文募集の
お知らせ等

会員募集中！



日本顔学会ホームページ



入会案内

日本顔学会会長から
ご挨拶：阿部恒之先生



日本顔学会関西支部

関西地域の会員に向けての情報発信を行っていきます。
独自の視点でのユニークな企画にご期待ください！

2023年8月には『ルッキズム』をテーマに、第4回研究会が開催されました。

その流れを継承して、フォーラム2024では、「顔学の研究と実践に潜むルッキズム」というテーマのシンポジウムが企画され、ルッキズムに関する活発な議論が行われました。



2023年8月の
パネルディスカッションの様子

支部長：瀬尾 昌孝



似顔絵制作：橋本 憲一郎

第29回日本顔学会大会 (フォーラム顔学2024) 開催報告

会場写真撮影
福富 大介

JOURNAL OF JAPANESE ACADEMY OF FACIAL STUDIES



写真撮影: 福富 大介



第29回日本顔学会大会(フォーラム顔学2024)は2024年11月2日(土)、3日(日)にアイーナいわて県民情報交流センター(盛岡市)の7階にある小田島組☆ホール及びホールと同じフロアにある岩手県立大学アイーナキャンパスで開催され、盛会にて終了いたしました。

まなざしの前(さき)にあるもの、まなざしの奥にあるもの



開会の挨拶をする阿部会長

本大会ではテーマを「まなざしの前(さき)にあるもの、まなざしの奥にあるもの」と設定し、このテーマの下で特別講演とシンポジウムが企画されました。



大会長：桐田 隆博



似顔絵制作：斎藤 忍



一般講演

一般講演としては、口頭発表23件、ポスター発表22、作品展示(実演も含みます)4件と企業展示3件が加わりました。口頭発表については「メイク・感性」、「開発・応用」、「似顔絵・イメージ」、「外見・美」、そして「知覚・認知」の5つのセッションに分けて実施しました。また、ポスター発表は1日目に10件、2日目に12件を実施し、作品展示と企業展示はポスター発表の時間に合わせて実施しました。顔をフィールドとして集まる多分野・多職種の方々との討論と交流のクロスオーバーをお楽しみいただけたかと思います。尚各賞受賞者は以下の通りです。



【興水賞】生成AIを活用した顔表情からの表情コピーと感情マップ生成

中村明日香、堀越月乃、遠藤洋、奥村英朗、河本優那、鞍崎愛里、齋田結衣(明治学院大学)、永田毅(明治学院大学/筑波大学)



【菅沼賞】顔形状を反映した次世代人工皮膚モデルの開発と応用

宮地克真、山田貴亮、白石健(日本メナード化粧品株式会社)、奥野凌輔(日本メナード化粧品株式会社/名古屋大学)、五十嵐敏夫(日本メナード化粧品株式会社)、長谷部祐一、長谷川靖司(日本メナード化粧品株式会社/名古屋大学)



【オーディエンス賞・口頭発表部門】前部前頭前皮質の活性化が顔の魅力印象に及ぼす影響—経頭蓋磁気刺激を用いた検討—

張優希、大石貴矢、水越興治(ポーラ化成工業株式会社)



【オーディエンス賞・ポスター発表・作品展示部門】睡眠習慣の乱れが肌状態と肌の自己認識に及ぼす影響を調べる

山口沙季、高井祐志、吉川智香子、伊藤ゆき、水谷友紀、中西美樹(株式会社コーサー)

特別講演

特別講演ではヒト特有の目の形状と視線行動に関して独創的な発想で研究を進めておられる橋彌和秀先生(九州大学)より、『「内なる目」と「外なる目」との接続可能性—ヒトの目の外部形態の進化を巡る議論と展望—』という演題で、大変有意義で興味深い講演いただきました。

これらの内容を多くの哺乳類、霊長類などの「目」の画像を提示していただきながら、ヒトの行動特性としての視線コミュニケーションについて、分かりやすく解説していただきました。



顔学の研究と実践に潜むルッキズム

また、2023年7月に日本顔学会関西支部において開催されたルッキズムに関する研究会の問題意識を学会全体で共有すべく、「顔学の研究と実践に潜むルッキズム」というテーマのシンポジウムが企画されました。



ルッキズムは顔学会においても常に課題になっているテーマかとも思います。「美しさ」と「差別」という、いわばトレードオフとも取れるこの難問に正面から挑んで、掘り下げていった内容だとも思いました。ルッキズムという、どこか釈然としない、解決策の見出せないでいる難攻不落のテーマですが、今回のようにディスカッションを重ねることによって、少しずつ光明が見えてくるようにも思います。



話題提供者：原塑氏
(東北大学大学院文学研究科・准教授)



話題提供者：真覚健氏
(仙台青葉学院大学看護学部・教授)



指定討論者：南野美紀氏
(株式会社ベルヴィーヌ取締役副社長)



指定討論者：阿部恒之氏
(東北大学大学院文学研究科・教授)



左はニュースレターのホームページ内、第29回日本顔学会大会報告の記事のページです。発表者の主旨などの詳細な情報が掲載しています。



抄録集(PDF)
閲覧にはパスワードが必要です。会員の方は同封の総会資料をご確認ください。

顔学オンラインサロン

顔に関心のある方にもかしたら役に立つかもしれない情報を紹介します。



左はニュースレターのホームページ内、顔学オンラインサロンの記事のページです。2024年2月からの記事のアーカイブと、それぞれの記事の概要を閲覧できます。

委員長：村上 泉子



似顔絵制作：橋本 憲一郎

顔学オンラインサロンは夕食後に気軽に、顔そして顔について語り合う場です。毎回各専門分野多くの方に参加していただき、顔というテーマに対しての色々な角度からアプローチされた、様々な意見や研究結果を発表し、議論する場になっています。右の赤枠内 QR コードは参加申し込みフォームです。非会員の方の参加も歓迎します。以下は、2024 年後半の顔学オンラインサロンです。

- ・第60回2024年8月6日(火)「美人画研究会での発表内容報告—縄文顔と弥生顔～時代による推しの顔—」
話題提供者：松永伸子氏(美人画研究会代表)
- ・第61回2024年9月17日(火)「写真の「顔」は誰の「顔」なのか」
話題提供者：馬場伸彦氏(甲南女子大学文学部メディア表現学科教授)
- ・第62回2024年10月8日(火)「まなざしの前(さき)にあるものまなざしの奥にあるもの」
話題提供者：桐田隆博氏(岩手県立大学人間福祉学科福祉心理系教授)
- ・第63回2024年12月3日(火)「観察者の性格特性と眼球運動が顔の印象推定に与える影響」
話題提供者：徐 昶哲氏 (弘前大学教育推進機構助教・日本顔学会若手交流会)

顔学オンラインサロンへの参加は無料です。会員以外でも参加できます！

基本的に月1回火曜日の20時から約2時間の開催を予定しています。お気軽にご参加ください。



オンラインサロン参加申込フォーム



顔学オンラインサロン・ホームページ

ニュースレター編集委員会

J-FACE NEWS LETTER

「ニュースレター」は、顔学会や公認スクール、関連団体などにまつわる各種活動・情報を紹介しています。

ニュースレター編集委員会ではメンバー募集中です！

J-FACE NEWS LETTER



ニュースレターが
ホームページになりました。

日本顔学会ニュースレター
<https://www.jface.info/>
活動情報やエッセーなど
楽しい記事が盛りだくさん！
動画コンテンツも開始。
ご覧ください！



編集委員の活動にご興味ある方、
オンラインミーティングへの見学可能です！

1996年3月発行の第1号より年3回、学会員向けに提供してきましたが、2019年よりPDF公開版として非会員の皆様にも楽しんでいただけるようになりました。

さらに2024年より全ての情報発信をホームページに切り替えました。



ニュースレターの
バックナンバーを、
ここからダウンロード
できます（PDF）。



編集長：新木 美代



似顔絵制作：宇田川のり子

日本顔学会若手交流会



顔学の未来を築く若手による気軽な交流・議論の場として
2012年11月に発足した、日本顔学会の公認サークルです。

■日本顔学会若手交流会とは？

日本顔学会若手交流会は、顔学の未来を築く若手による気軽な交流・議論の場として2012年11月に発足した、日本顔学会の公認サークルです。

同じ「顔」という対象に興味・関心を持ちながらも普段はなかなか接点を作ることができない異分野の若手研究者や顔に関わる実践家がメンバーとなり、定期的に活動しています。

「若手交流会に参加することにより、新たなつながり、知見、刺激が得られ、モチベーションの向上につながった」という声があがっています。

■参加資格は？

「自称若手であること」「自己紹介資料を作成すること」の2点です(非学会員も可)。

■活動内容は？

主な活動は、定期交流会、交流会メンバーでの有志活動、メールでの議論です。既存の枠にとらわれない独創的な研究活動と、一般の人々に顔学の面白さを伝えるアウトリーチ活動を展開し、顔学を「深める」「広める」ことを目指して活動しています。



第32回交流会の様子



左はニュースレターの
ホームページ内、若
手交流会の記事のペ
ージです。

2024年2月からの
記事のアーカイブと、
それぞれの記事の内容
を閲覧できます。



Whats New、活動報告詳細、
メンバープロフィール、
研究実績、メディア掲載等
日本顔学会若手交流会
ホームページ

代表：徐 貺哲



似顔絵制作：吉村 まゆみ

化粧文化研究者ネットワーク

代表：北山 晴一

化粧文化に関する研究会開催と情報交換を通じて、
化粧文化研究の深化発展と若手研究者の奨励をめざす。



似顔絵制作：中村 剛

▼化粧文化研究者ネットワークとは？

化粧行為は私たちの日常生活に深く根づいていますが、化粧あるいは化粧文化に関する研究はこれまで長い間、学問的認知が十分でなかったために、研究上の困難は並大抵のものではありませんでした。また、研究者の層もなかなか厚くなりませんでした。

当ネットワークは、日本における化粧文化研究の草分けだった故・村澤博人(初代代表、元大阪樟蔭女子大学教授・元日本顔学会副会長)の呼びかけのもとに、化粧や化粧文化に関する研究者を中心としたネットワークの形成を行ない、2005年3月に研究活動を開始しました。

現在は北山晴一代表(立教大学名誉教授)を中心に東京と大阪で定例の研究会を開催し、毎回、身体とその粧いに関する刺激的な議論を展開しています。

最近の主なトピックス

- ・今回の研究会(第68回)は、2025年3月中旬、大阪開催を予定しています。
- ・前回(第67回、2024.07.06)は「『髪をもたない女性たちの生活世界 その生きづらさ対処戦略』(生活書院)の著者に聞く」(講師：吉村さやか氏、日本大学文理学部社会学科助手)でした。



第67回研究会の様子



左はニュースレターの
ホームページ内、化粧文
化研究者ネットワークの
記事のページです。

2024年7月からの記
事のアーカイブと、そ
れぞれの記事の内容を閲覧
できます。



化粧文化研究者ネットワー
クホームページ

過去の研究会の内容
化粧文化関連の書籍を紹介
お問い合わせ等

美人画研究会

美しさを表現して描かれた人物絵画、版画、イラスト、
写真などを対象とした研究発表を行なっているサークルです。

- ◆美人画研究会は2014年に発足し、2015年より顔学会の公認サークルとしても活動しています。現在以下の2タイプの研究会を、年に3〜4回のペースで交互に開催しています。

- 1 浮世絵を中心とする作品や絵師(作家)、時代背景などを考証した研究発表を行うアカデミック研究会(主宰者：畑江麻里)
 - 2 美人画の顔や表情に着目した研究発表を行い、設定したテーマに沿った美人画を創作発表するクリエイティブ研究会(代表：松永伸子)
- ※美人画を創作する「クリエイティブメンバー」は会の企画・運営にも参画しています。

- ◆1、2、どちらの研究会も気軽に研究発表できる場を提供することを目的としており、「美人画を楽しむ」ことを大切に、様々なジャンルの方が参加して交流できる場となっています。

- ◆クリエイティブ研究会は顔学会と連携した活動も行っており、2024年度は「縄文顔と弥生顔」をテーマとした研究会を3月と7月の2回開催いたしました。その際に参加くださった顔学会の先生方や会員さんと楽しく意見交換ができました。また、「顔学オンラインサロン」(8月)や「顔学会連携Zoomミーティング」(2023年10月)で話題提供もしています。

- ◆多様な顔を「美人画」の題材にするクリエイティブ研究会は、顔学会の皆様が自由に参加できる場です。どうぞ気軽にご参加ください！



第33回美人画研究会、集合写真



左はニュースレターの
ホームページ内、美
人画研究会の記事の
ページです。

2024年2月からの
記事のアーカイブと、
それぞれの記事の内容
を閲覧できます。



研究会の内容、活動報告等
美人画研究会ホームページ

クリエイティブグループ
代表：松永 伸子



似顔絵制作：宇田川のり子